

カナナこと、 こんなこと。

Vol.11 『無用の価値』

こ の前、小さな子に付き合っ
て切り紙細工をしているときに思っ
た。いやー、「のりしろ」って大事だ
なあ……と。のりしろ部分が小さ
すぎると貼り合わせられなくて
穴があいてしまうが、ではのり
しろが大きければ良いのかとい
うとそういうものではない。分厚
くなるし、のりがボコボコする
し、あまり格好良く貼り合わせ
られないのだ。うーん、加減だ
なあとしみじみ思ったが、よく
考えてみると私たちは、こうい
う「のりしろ」の部分にずいぶ
ん助けられている。

「のりしろ」がなければ貼り
合わせられないのはもちろん、
「ハンドルの遊び」がなければ
事故は多発するだろうし、「階
段の踊り場」がなければ人は
息切れしてしまう。

コロナ禍のせいだけでなく、
いつの頃からか私たちはそう
いう「間」のようなものをあ
まり大切にしなくなった。む
しろそれらを「無駄」なもの
という認識で見ようになり、
何となく排除するようになって
しまったのかもしれない。

けれども全てが「無駄」であ
ったり「非効率」なわけではない。
そうやって何もかもいっしょ
くたにして切り捨てるうちに、
いつのまにか私たちは、いろ
いろなものを失ってしまった。
だから、きちっとつながるよ
うな貼り合わせはできなくな
ったし、遊びのないハンドル
で社会に出るから事故ばかり
になってしまったし、息切れす
るばかりの暮らしになってし
まった。

音符だけではなく、休止符
があるから音楽になる。絵の中
に余白があるから色が生きる。
「余裕」の「裕」という字には
「ゆたか」という意味があるし、
「寛容」の「寛」には「ゆる
やか」という意味がある。

効率を上げようと無駄を排
除するときに、ゆたかでゆる
やかなものも、私たちは一緒
にゴミ箱に捨ててしまったの
かもしれない。無駄だと思
うものの中には、必要な
ものも、ゆたかなものも、
ゆるやかなものもちゃんと
あるのだ。

経済はもはや人間生活には
欠かせない側面になったの
だから、もちろん

大切にしなければいけない。
けれども、今やその私たちの
暮らしの重要な基盤とな
った経済を守ろうとすると、
やみくもに十把一絡げに切
り捨ててしまうので、その
ために案外、大切なもの
も一緒に捨て去ってしまう
のかもしれない。はっと
気づいたときはもう遅い。
覆水盆に返らずのことは
多いのだ。そして私たち
は苦しくなってようやく
気づく。自分たちが苦し
いのは、自分たちが自ら
捨ててしまったことのせい
なのかもしれない。

老子の言葉に「無用の用」と
いうものがある。一見無駄
に思えるものの中にこそ
有用なものがあるという
教えた。コップは空間が
あるからこそ、そこに
液体を注げるのだし、
家も立派な外観より、
私たちは空間で過ごす
のだし、ああ考えてみ
れば携帯する折りたた
み傘も、保険も、みな
無用の用なのかも
しれない。大変だ。本
当の無用と、大切な
無用をちゃんと考
えないとえらいこ
とになる！

神津カナナ

作家、「フォーラム・エネルギーを考
える」代表。長年にわたる執筆活
動の傍ら、国内外のエネルギー
関連施設や現場取材し、暮らし
の中のエネルギーといった視
点で講演活動などを行っている。
著書に『水燃えて火～山師と
女優の電力革命～』『冷蔵庫が
壊れた日』ほか多数。

